

京都大学出前授業

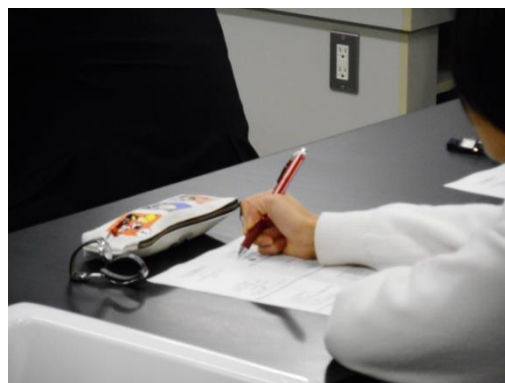
学びコーディネーターによる出前授業

～エシカルな消費について考える～

11月5日（月）に京都大学大学院博士後期課程 浮網 佳苗先生をお迎えして「エシカルな消費を考える」という題目で講義をしていただきました。約20名が参加し、適宜レジュメにメモを取りながら聞き入っていました。

先生の経歴と大学と大学院の違いや大学院には修士課程と博士課程があること、大学院での研究についてといったことを話されました。先生は西洋史学を専修されており、今回の研究動機を話されたとき、歴史と経済は繋がっていたことに生徒は気づかされた様子でした。物事を別の視点で考え直してみるという研究視点をご教授いただきました。また、今回の講義を通して一人ひとりがエシカルな消費を考え直すきっかけにもなりました。講義終了後の質問にも丁寧に答えていただきました。ありがとうございました。

【授業の様子】



生徒の感想から

○社会問題がたくさんある事は知っているけれど、その起源や歴史的背景にさかのぼるといった活動は今回が初めてでした。例えば「ブラック企業」について報道があった時、どうしてこの会社は労働者を大切にしないのだろう。と思うことがあったけれど、もとをたどってみると、実は私たち消費者が欲しがっている、そして大量に購入しているということが大きな理由の1つであることがわかりました。今日はこのように私たちの生活と社会問題とが密接に関わっていると言うことを実感できました。(1年生)

○私は普段の買い物でも、質のよいもの、本当に欲しいものを選ぶようにしています。しかし、それが作っている人であるとか、環境に対し影響を与えていると言うことを初めて知りました。今日の講義を聴いて一番驚いたのは、無農薬のコットンを作る人には体に健康被害が及ばない、良好な労働環境だと言うことです。健康被害と言うものは長時間労働や人間関係のストレスだったりするものばかりかと思っていましたが、そんなところからも影響があるのは驚きでした。(2年生)

○私が今回の話を聞いて感じた事は、歴史を学ぶ事は現代の問題を解く鍵にもなるということです。過去の歴史と今とを比較する事は現在の問題を解決するものになるということにはとても共感できました。(1年生)

○今回の授業に参加するまでは「エシカル」の意味すらわからなかったが、今日の授業を通して、自分が今消費しているものやサービスに対する見方が変わったと思う。値段だけでなく商品の質も重視しなければいけない、また、国民一人ひとりの意識の改革なしには解決はありえないということがわかった。(1年生)

○最近、「オーガニック」や「フェアトレード」という言葉を聞くことがありましたが、それは体に良いことであるだけと思っていました。しかし歴史的背景があり様々な問題があることがわかりました。消費者と生産者を同じ立場として考えなければエシカルの表皮と言うのは成り立たないと思いました一人一人が少しでも買い物するときに意識を変えていくのが大切だなと思いました。(1年生)

○今回の授業を通して、消費についての課題を自分なりに考え、現代人の買い物に対する価値観を研究する必要があると考えました。これから大学でエシカルな消費の仕組み、大量生産、大量生産時代の人々の考えについて学んでいきたいと考えました。(3年生)